



# 第4回日本ヘルスケア学会年次大会 公益財団法人日本ヘルスケア協会活動発表会

会期:2023年3月17日(金)・18日(土)

会場:明治大学駿河台キャンパス

# I. 第4回大会の特徴(1)

○3年振りのリアル開催

○アカデミーホール(3階)、ビクトリーフロア(2階)、  
教室(10階)の3施設で展開

○メインテーマは「ヘルスケアが拓く健康で豊かな  
未来社会～肥沃な市場を切り拓くシナジーの創出」

○過去に五木寛之氏、稀勢の里関等を招いた  
集客力に偏ったプログラムから、最新・最先端  
の情報提供を中心にした学術的内容へ

## 第4回大会の特徴(2)

- 基調講演、特別講演、教育講演と内容は多彩に
- さらに、公募による口頭発表、ポスター発表は、審査委員による厳重な審査を経て、閉会式で優秀賞を授与
- 第4回大会の目玉の一つは、セルフチェックの推進であり、2022年11月に再スタートしたセルフチェック部会の構成員を中心としたセルフチェック機器のデモが10階の教室で行われる
- 健康測定器、検査キット、疾患管理アプリ等の活用と、消費者の状況に応じた商品サービス選択のメリットを高める活動を推進

## 第4回大会の特徴(3)

- 大会開催の全貌は速記録に基づき、事後に「開催報告書」として編集・発行され、参加者に無償配布されるとともに、前回までと同様、全国の都道府県中央図書館に2部ずつ納本される。
- 複数のスケジュールが同時進行するため足を運んだ以外の会場で行われた講演等の見当を付けて頂くことができます。

## II. 主なプログラム紹介(1)

(1) 基調講演 桐村里紗 医師

「プラネタリーヘルス～人も地球も健康なまちづくり」

新たな学術分野や企業活動で注目されているプラネタリーヘルス（人と地球の健康）の実践の場として鳥取県江府町当局と連携し、無農薬・無施肥・不耕起の協生農法を試行。

「腸内の土壌改良にもなる食の選択」を唱える地域創生医である。



# 主なプログラム紹介(2)

## (2)教育講演⑦ 獨協医科大学・井手久満教授 「セルフチェックの重要性と課題」

健常者には自らの日常的な健康状態と生活習慣のチェックを促し、一方、高リスクの生活者には疾病の早期発見と適切な受診勧奨、重篤化させない環境を整えるためには、セルフチェックが決定的に重要。昨年11月に再スタートしたセルフチェック部会の部会長から機器・検査キット・疾病管理アプリ等の条件整備の方向を学ぶ。

# 主なプログラムの紹介(3)

(3)教育講演⑧東大医学系研究科 岩坪威教授  
「アルツハイマー病の超早期診断から認知症  
克服に向けて」

2025年、日本の65歳以上人口の認知症割合は約20%と推計される中、この分野の最先端研究に携わっている岩坪教授から、アルツハイマー病問題への基本的対処について学ぶ

# 主なプログラム(4)

(4) 特別講演 酒井直人 東京都中野区長  
「『健康』で築くまちづくり」

今後の本格的な超高齢・定常的な人口減少社会の到来に向け、「健康」概念を街づくりの中心に据えて斬新な行政を進める先進自治体・東京都中野区の酒井区長から、中野区「総合アクションプラン」を踏まえた今後の区政の方向について伺い、藤井多希子地域包括ケア推進担当部長から補足して頂く

# III. その他のプログラム(1)

(1)教育講演①(一社)人とペットの幸せ創造協会 越村  
義雄会長「ペットとの共生とヘルスケア」

(2)教育講演②ごはんが食べたい歯科 齋藤貴之院長  
「在宅歯科診療の現状と将来」

(3)教育講演③(株)スギ薬局 杉浦伸哉常務取締役  
「管理栄養士の栄養指導活用」

(4)教育講演④弘前大学 青山正和名誉教授  
「植物生育と腐植物質」

(5)教育講演⑤(一社)日本薬業研修センター医薬研究所  
堀美智子所長「ファーストエイド普及の  
重要性と課題」

## その他のプログラム(2)

- (6) 教育講演⑥Woman's 阿部エリナ代表取締役  
「女性のヘルスケア」
- (7) 教育講演⑧法政大学大学院 玄場公規教授  
「健康経営普及の現状と課題」
- (8) 協賛団体報告 応用薬理研究会 大泉康会長(予定)
- (9) 関係官庁報告 経産省、農水省(予定)